

Pink Ribbon Festival in Tsukuba 2009

報告書



つくばピンクリボンフェスティバル09

Breast Cancer Awareness 乳がん—知って、考えて、行動する—

2009年5月10日(日) 母の日 つくば国際会議場エポカル

イベント

ピンクリボンラン 4月29日(水)

銀輪隊ツーリング 5月9日(土)

10:00-	受付開始 / 多目的ホール入り口 (-15:00) 乳がん検診 / 大会議室 101・南駐車場(検診車) ウォーク / エポカル・ペディストリアン 乳がん相談コーナー / 中会議室 201 (-12:00) ピア交流サロン・患者の会コーナー / 中会議室 202 (-15:00) 展示ブース・ピンクリボン絵画展 / 多目的ホール (-16:00)
11:20-12:40	ピンクリボン on ステージ / 多目的ホール マーチング: 吾妻小学校レッドウィングズ 歌・ゴスペル: コスペルクワイア ジュピター つくピン合唱団 あなたの町、私の町の乳がん検診 エイボンピンクリボンコネクションツアー 2009
13:00-15:00	大ホールイベント (開場 12:45-) 総合司会: 松岡 正美 開会の挨拶 市原 健一 / つくば市長 青山 充 / 茨城県保健福祉部保健予防課長 赤座 英之 / 筑波大学附属病院総合がん治療センター長 基調講演 明るくさわやかに生きる —アグネスが見つめた命— アグネス・チャン
15:00-15:10	休憩
15:00-16:00	アンサーパット形式 どんな人が乳がんになりやすい? アンサーパット: 武田製薬工業株式会社提供

主催: つくばピンクリボンフェスティバル09 実行委員会
NPO 法人 つくばピンクリボンの会

名誉大会長: 市原健一 / つくば市長

名誉実行委員長: 赤座英之 / 筑波大学附属病院総合がん診療センター長

大会実行委員長: 植野 映 / 筑波メディカルセンタープレストセンター長

共催

筑波大学附属病院、茨城乳腺疾患研究会、茨城県、つくば市、NPO 法人乳房健康研究会、財団法人筑波メディカルセンター、社団法人茨城県放射線技師会、財団法人茨城県メディカルセンター、東京医科大学茨城医療センター、財団法人茨城県総合健診協会、取手市医師会取手北相馬保健医療センター医師会病院、目立メディカルセンター、土浦協同病院、つくば市医師会、茨城県医師会

後援

茨城県ウォーキング協会、NHK 水戸放送局、茨城県看護協会、首都圏新都市鉄道株式会社 (TX)、J:COM 茨城

協力 日本対がん協会

協賛

アストラゼネカ株式会社、アロカ株式会社、株式会社ウロメディカルジャパン、エイボン・プロダクツ株式会社、QOL 総合研究所 (Q 研)、協和発酵キリン株式会社、コニカミノルタヘルスケア株式会社、サノフィ・アベンティス株式会社、GE 横河メディカルシステム株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、塩野義製薬株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、大鵬薬品工業株式会社、武田薬品工業株式会社、中外製薬株式会社、東芝メディカルシステムズ株式会社、日本化薬株式会社、ノバルティスファーマ株式会社、株式会社日立メディコ、ファイザー株式会社、富士フィルムメディカル株式会社、ブリストル・マイヤーズ株式会社、株式会社ヤクルト、ユコー株式会社、株式会社ワコール、あおやぎ医院、岩佐医院、石岡市医師会病院、医療法人おおたしろクリニック、貝塚みずき野クリニック、烏山診療所、特別養護老人ホーム「木の花さくや」、KG 竹園クリニック、医療法人弘仁会志村病院、土浦産婦人科、筑波記念病院・トータルヘルスプラザ、つくば辻クリニック、二の宮越智クリニック、イーアスつくば、株式会社イセブ、株式会社カスミ、常陽銀行研究学園都市支店、関彰商事株式会社、ダイワハウス株式会社、つくば学園ロータリークラブ、広沢グループ、有限会社宮島達男事務所、株式会社横山印刷、ピンクリボンクラブひたち、くるみの会、森の会、たんぼぼ会、NPO 法人 J-POSH、NPO 法人知の市庭 & すぎなみ大人塾 & 図書サービスフロンティア

発行: NPO 法人つくばピンクリボンの会

写真: 齊藤さだむ

デザイン: 田中佐代子

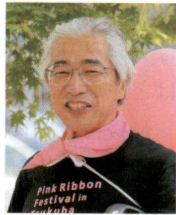
写真・画像・記事等の無断転載、無断使用をお断りします。

♥ 行動しよう

植野 映

NPO 法人つくばピンクリボンの会理事長
筑波メディカルセンタープレストセンター

乳がんを勉強し、4年の間みんなで一生懸命考えてみた。Pink Ribbon Festivalで啓発も行った。ところが検診の受診率は一向上昇の兆しをみせない。Changeにはなが必要なんだろう。ものをいうのはタダだ。タダだけにいくら大きな声で叫んでも人は動かない。社会にも人にも変化は現れない。その帰結としてわれわれに導かれたのは、行動しなければなにも変化しないであった。“乳がん-知って、かंगाえて、行動する”が今回のメインテーマとなった所以である。



この1年、県から委託を受けたピアカウンセリング事業や各地で行われた啓発運動に積極的にに関わり、行動してきた。また、各市町村の乳がん検診を調査し、県内の検診の実態を把握した。フェスティバルにはラン、ステージパフォーマンス、アンサーパッドなど新規の企画も取り入れるとともに無料検診をはじめ、既存の企画にも新たな創意工夫を施した。また、徐々に累積された財源を最大限有効的に利用し、大きなうねりを創ろうと合意し、乳がん体験者で魅力的な方に講演をお願いすることをも計画した。これらのダイナミックな企画が共感を呼び、フェスティバルには約1200名の参加者が得られた。

この活発な行動が行政の方針にも変革の兆しをもたらしていた。一番大きな変革は、2008年の後半にみられたつくば市の受診率の向上であろう。昨年は、停滞していた受診率が一気に約2倍に上昇。また、市では本年は受診希望者には必ず検診を用意するとの方針をも掲げるまでに変化している。そして21年度の国会の補正予算には女性の疾患の検診には重点的に大型の補助が出される見通しとなっている。これもわれわれが地道に活動してきたことの成果であろう。国も県も検診受診率50%達成を目標と掲げている。われわれの思惑と一致する。目標に向かってあと一歩、ひと分張りだ。

♥ ピンクリボンラン

水谷理紗 実行委員 筑波大学医学専門学群



4月29日、透き通るような青空の下、つくばピンクリボンフェスティバル09をアピールすべく、ピンクリボンランが開催されました。おそろいのTシャツを着て、パンフレットを配りながら市内を走りました。

今年初の試みでありましたが、市原つくば市長、五十嵐筑波大附属病院院長を始め、66名が集い、明るくにぎやかな一日となりました。

年齢や職種を越えて交流が広がり、イベントを通して、温

かい笑顔であふれていました。事故やけがなく無事に終えることができ、ゴール後はすがすがしい気持ちでいっぱいでした。

参加して下さったランナーの皆様、陰で支えて下さったスタッフの皆様にご心から感謝いたします。そして、このイベントが来年、再来年と続きますようお願い申し上げます。



♥ 銀輪隊ツーリング

松永かずはる スポーツバイクつくばマツナガ

今年もピンクリボンフェスティバル前日に銀輪隊が出動しました。

総勢20数名、お揃いのハートマークのTシャツに今年はハートマーク型の風船を自転車や背中にくくりつけてフェスティバルをアピールして学園都市を駆け抜けました。

今年で3回目となる銀輪隊、過去2回の反省をふまえて、人目につき、かつ安全率が高いということでコースを選びました。つくば中央公園をスタート、新井、二の宮をくるとまわって花室へ。旧道を通って桜をぬけて学園の真ん中を抜けて帰ってくるコースです。参加者全員がフェスティバルの



意味をしっかり理解し参加しているのがとても頼もしかったです。

今回初トライの背中や腰につけたハートの風船も青空に映え、とてもアピール度高かったです。

♥ 乳がん検診

森島 勇 実行委員 筑波メディカルセンター病院乳腺科

今年度は、募集人員60名に対して、約3倍の応募がありました。

2時間の制約時間のため、やむなく抽選としましたが、県内の検診機関スタッフとボランティアの協力にて110名余の検診を実施することができました。5年前の第1回フェスティバルでは、定員割れの申し込み状況だったのが、うそのようです。

「乳がん-知って、かंगाえて、行動する-」、まさに、乳



がん検診の意義と重要性を多くの方が理解し、検診を実際に受けるという行動がなされるようになってきているのだと、強く実感しました。

♡ ウォーク

川上 清 茨城県ウォーキング協会

今年で4回目、つくばピンクリボンフェスティバルのウォークを担当した。昨年の大会が終わった直後に実行委員の方から興味ある提案を受けた。10キロ、4キロ両組を途中で鉢合わせさせようとのこと。一年間考えて実行したということと大げさになるが、前年新制定のいばきヘルスロード東大通り、西大通りを使えばやすいこと。30分遅れて出た4キロチームがエキスポセンター終盤にさし掛かった時、反対側から10キロチームが姿を見せた。4キロ365名、10キロ53名が互いにタッチ、ハイタッチで過ぎた。みんなに笑顔があった。この笑顔が乳がんの心配から解放された女性たちの真の喜びに満ちた笑顔であって欲しいと瞬間思った。



♡ バルーンパフォーマンス

井上洋一 サノフィ・アベンティス株式会社

5月にしては気温が高い中、汗をかきながら製薬メーカーとボランティアスタッフ40名ほどで、朝7時から10時まで、2000個のピンクバルーンを作成しました。

最初のうちは、雑談も多くあり、元気よく作業をしていましたが、1時間ほど過ぎると、バルーンを結ぶ際、指先が擦れる事による痛みが増してきました。次第に会話も少なくなり、バルーンの残り数が報告されると、ため息をつく声も多く聞こえてきました。この単純のつらい作業の励ましになったのは、ウォークに参加される年配の方や小さいお子さんがピンクバルーンを喜んでもっていく姿でした。

作成したピンクバルーンがこのイベントに大きな貢献をしているという気持ちになり、2000個を作成することが出来ました。



♡ 乳がん相談コーナー

梅本 剛 実行委員 筑波メディカルセンター病院乳腺科

毎年の恒例となっております、乳がん相談コーナーを担当いたしました。

今年は事前に13名、当日に3名の相談申し込みをいただき、相談者からの希望や各相談医の得意分野を考慮のうえ、相談者の割り振りを行いました。

相談の内容は乳房再建について、薬物治療の副作用について、再発の不安についてなど多岐に渡っていましたが、相談医の先生方にはそれぞれにゆっくと、丁寧な対応をしていただきました。会場には相談者のプライバシー確保のためのパーティションのほか、乳がん認定看護師を交えて会話ができるようにした一角を設け、おおむね好評だったようです。

地味な活動ではありますが、「乳がん撲滅」を目指すつくばピンクリボンの特徴のひとつとして、今後も続けていければと思います。

最後に、ご協力をいただきました相談医の先生方に心より感謝を申し上げます。

相談医 (敬称略)

佐藤 宏喜 (水戸赤十字病院)

武田 泰隆 (複十字病院)

原 尚人 (筑波大学)

坂東 裕子 (筑波大学)

平野 稔 (茨城県立中央病院)



♡ ピア交流サロン・患者のコーナー

伊東孝子 実行委員 たんぼぼ会



今年も会場にたくさんの患者・家族の方々に足を運んでいただきました。

ピア・交流サロンのコーナーを設定したことで、県の養成講習会を修了された相談員とジックリ話をする方々や、相談員を囲み、お茶を飲みながら皆さんで和気藹々と話をされている姿を多く拝見しました。中には患者会を探している方もいらっしゃいました。

色々なお話を伺って思う事は、乳がんを経験した私達だからこそ言える定期健診・早期発見の大切さを皆様にお伝えしていくことです。

また、病を経験した私達ですが、今こうして普通に活動できている姿をみていただけた事で、足を運んで下さった皆様も、何かを前向きに感じていただけたことを、期待いたします。

今年もボランティアとして協力して下さった患者会(森の会・くるみの会・たんぼぼ会・momo)の皆様、ありがとうございました。また来年も、お会いしましょう。

♡ ピンクリボン on ステージ

光畑桂子 実行委員 筑波メディカルセンターつくば総合健診センター

今回初めて多目的ホールにて音楽・機器や絵画展示・グッズや軽食販売・骨強度測定などを行いました。今まで分散されていたブースが集まったことで、にぎやかさが増し、多くの方にご参加いただけたと思います。

初めての企画として、つくば市立吾妻小学校マーチングバ

ンド「レッドウイングス」の演奏、ゴスペルクワイア「ジュピター」の歌声は更に会場を盛り上げてくれました。吾妻小学校は50名が演奏し、多くの保護者も見学に訪れ、幅広い世代に乳がん検診のPRができました。これを機に検診を申し込まれた保護者もいたようです。またゴスペルは歌っている方のノリの良さに、会場全体が揺れるような楽しさでした。



続いて実行委員・中野さんの「あなたの町、私の町の乳がん検診」の発表がありました。これは市民の目線で県内の市町村の乳がん検診状況を調査・比較したもので、とても興味深く、多くの方が聞き入っていました。

是非来年も音楽や踊りなどたくさんの方にご参加頂き、フェスティバルを盛り上げるステージを継続したいと思います。

♥ ピンクリボン絵画展

加藤奈津子 筑波大学医学系技術支援室



一昨年・昨年に引き続き 第3回絵画展を開催しました。土浦聖母幼稚園、つくば市立手代木中学校、県立竹園高等学校、県立土浦第一高等

学校より御理解・御協力を頂き、70数枚のポスターを描いてもらうことができました。これもピンクリボン活動のすそ野が広まった結果だと 感謝と確信が胸に広がりました。

今年は 多目的ホールの一角が会場でした。ゴスペルや検診の発表などで活気に満ち、人があふれた空間での展示でしたので より多くの人の目に留まったようです。マーチングバンドや作品協力してくれたお子さんの保護者・関係者の方々の中には、立ち止まって見入る人もありました。本当にたくさんの方の興味を引くことができたとと思います。

絵画展作品としては、「乳ガン検診への知識と理解を深めるポスターを」という説明で作製をお願いしたのですが、このテーマは男子生徒には厳しい内容だったかもしれません。しかしこういう現実があること、検診で未来が広がること、そして将来、身近な女性への心配りにつながってもらえたら嬉しいと思います。

最後にこのような企画を任せて下さった実行委員のみなさまの度量とご尽力に そして関わったすべての皆様に心より御礼申し上げます。

絵画展受賞者

●つくばピンクリボン絵画大賞

小松崎詩織 (茨城県立土浦第一高等学校)

●つくばピンクリボン絵画賞

なす みづき (土浦聖母幼稚園)

●つくばピンクリボン絵画特別賞

のぐち るか (土浦聖母幼稚園)

鈴木 貴登 (茨城県立竹園高等学校)

境 耕平 (茨城県立竹園高等学校)

乾 左徒子

宮地 麻生 (つくば市立手代木中学校)

♥ 基調講演

「明るくさわやかに生きる－アグネスが見つめた命－」

野口 恵 実行委員



今年は、アグネス・チャンさんをお迎えし、「明るくさわやかに生きる－アグネスが見つめた命－」という演題で基調講演が行われました。

ご自身の乳がんの事や、海外でのボランティア活動など、貴重な体験をお話頂きました。

頭頸部の良性腫瘍の切除手術による顔面神経麻痺という芸能活動をするアグネスさんにとって深刻な後遺症、やっと回復した時にわかった乳がん。しこりの発見から現在までの治療の過程で感じた悲しみや苦しみは、華やかな舞台上で活動されるアグネスさんも私たちと何一つ変わりはありませんでした。

告知、手術、放射線治療、ホルモン療法と長く続く治療を受けるアグネスさんを支えたのは、やはりご家族の存在だったと深く共感し、これからの仕事にマイナスになるかもしれないマスコミへの公表を、他のがん患者のためにとされた強いご意志に大変励まされました。

後半は、アフリカやアジアの紛争地帯でのボランティア活動のお話で、戦争による貧困など、大変困難な環境の下でも希望を持って生きる子供達のお話はとても感動的でした。遠い異国の子供達の幸せを願うアグネスさんの命も、きらきらと輝いているように思いました。

乳がんに限らず、様々な試練に直面した人達でも、希望を失うことなく生きられる社会になることを心から望みたいと思います。

そして、最後には歌もご披露下さり、明るく優しい歌声に勇気付けられ、温かく心に残る講演会になりました。



♥️ どんな人が乳がんになりやすい？

八木淳子 実行委員

新企画としてアンサーパット形式「どんな人が乳がんになりやすい？」を行った。これは乳腺専門医として多くの患者と関わってきた植野理事長の「乳がんにかかりやすい人は何か特徴的な食生活や生活習慣があるのでは？」という長年の疑問と、アンサーパット提供をしてくれた武田薬品工業株式会社の協力で今回実現したものである。

アンサーパットとは会場にいる回答者が、質問に対して手元のパットのボタンを押して答え、瞬時にその結果がスクリーン上に現れるというもので、司会は基調講演に引き続き松岡正美さん、コメンテーターを植野理事長が勤めた。

データの的には40代以上の女性で乳がん体験者とそうでない人100名ずつを比較する予定であったが、イベント進行上それが叶わず、詳細は後のデータ分析で対応することとなった。

乳がん罹患したことがあるかどうかと年代の質問の後、食生活・生活習慣・性格・体格、出産等に関する20項目の質問に会場の回答者がアンサーパットを押して答え、その結果を見て植野理事長がコメントした。集計結果が予想通りとは限らなかったが、松岡さんの軽妙なナイスフォローでスムーズに進行した。

「方向感覚が良いか、悪いか」「人差し指と薬指の長さの関係は」など意表をつく質問や、また「話好きかどうか」の質問などで会場は盛り上がり、教育的でありながら、来場者も一緒に参加し、楽しめるつくばピンクリボンらしいユニークな企画であったと思う。



♥️ ボランティアで参加して

井上陽子 筑波メディカルセンター病院

今回は、「乳がん相談」の看護師としてボランティアで参加しました。乳がん専門医の乳がん相談コーナーの会議室では、リラックスして相談ができるようにピアノのクラシック音楽が流れ、相談の時間も十分にとっており、受付からスムーズに相談できるように実行委員の方々のご配慮を感じました。私は同じ会議室で、相談者からこれまでの体験談を聞きアドバイス等することができ貴重な時間を過ごすことができました。

私は「看護師として相談者の身近な存在でありたい」と思って活動しています。来年は、更に乳がん看護の知識を深め「看



護相談」として役立ちたいと思っています。

今後も乳がん検診の普及のため、病院施設を超え地域の看護師として参加していきたいです。

♥️ つくばピンクリボンのメロディ

平井理心 実行委員 筑波大学附属病院総合がん診療センター

第5回を重ねるフェスティバルですが、私は初めて参加させていただきました。

「ピンクリボン」というフレーズからうまれる数々のイベントであるメロディに聴き入り、酔いしれました。そのメロディを奏でる実行委員のみなさまのパワー、熱意に心揺さぶられ、会場にお越しいただいた方々の思いに胸が熱くなりました。

フェスティバルには、娘と参加させていただき、一緒にブースの準備をしたり、バルーンを結んだり。そういった共通した体験が、母娘で「乳がん」のこと、「命」のことを話しあえるきっかけとなっています。このように、フェスティバルが終わっても様々な場所でメロディは奏でられています。そして、来年もまた、素敵なメロディが重なることを願っております。



♥️ ボランティアを体験して

山崎あかり 竹園高校2年

「こういう人は乳ガンにならない、とかこうしたら乳ガンにならない、ということはないんです。誰にも発病する可能性はあるんです。」これは、ピンクリボンフェスティバルで、乳ガンを体験したアグネス・チャンさんが講演会で言った言葉です。私はこれを聞いてとても大きな衝撃を受けました。乳ガンとは無関係だと思い、考えたこともなかったからです。でも、この講演会をきっかけにピンクリボンフェスティバルの展示や、いただいた資料を見て回り、乳ガンは恐ろしい病気ではあるけれども、早期発見・早期治療によって、命を救うことができるということを知りました。ピンクリボンフェスティバルにボランティアとして参加したことは私にとって、乳ガンについて考えるとても良い機会になったと思います。

今度は私が乳ガンについて伝える番だと思います。私たち高校生にとってはあまりなじみのないことではありますが、少しでも多くの人に乳ガンについて考えてほしいです。またこのような活動に参加してみたいと思います。



♥ 5年目の奇跡

つくばピンクリボンの会事務局

当初1回限りかと思われたつくばピンクリボンフェスティバルも今年で5回目を迎えた。事務局は3月から入力作業、電話対応のための臨時体制を組み、頼りになる2人のスタッフを加えた。今年は、何かが違っていた。特に地元のフリーペーパーに案内掲載後しばらくの間、乳がん検診とアグネス・チャンさんの講演の問い合わせで電話が鳴り止むことがなかった。検診は締め切ったことを告げると、この世の終わりかと思うほどがっかりする人、なぜもっと検診枠を増やさないのか、と怒る人まで。どうも当会を検診団体だと勘違いされている人もいるようで…。そのたびにフェスティバルの目的と自分で自治体などの検診を受ける方法を説明した。それぐらい「乳がん検診を受けないといけない」と思う人が増えたということだ。若い人からご年配の人まで、さまざまな人がそう感じ始めている。5年目にして始めての手応えだ。

プレイベントのピンクリボンランも銀輪隊もお天気に恵まれ、ランナーやライダーの溢れる笑顔とピンクのハートは、無機質なつくばの街角に彩りを添えた。

当日。雲ひとつない、抜けるような青空。ウォークはこの天気ならもう間違いないし、検診も順調に流れているようだ。新企画の多目的ホールイベントは、「乳がん撲滅」をキーワードに誰もが一同に会し、出会う場所となるように一参加者もボランティアもスタッフも、ドクターも患者も一と目論見が当り、大賑わい。実際そこで私は思いがけない人3名に再会した。アグネス・チャンさんの講演の大ホールはほぼ満杯。アグネスさんの思いがこもった言葉一つ一つが、やさしく、そして力強く、時にはユーモアに溢れ、多くの人が感動で涙ぐんだ。アンサーパッドはわくわくしながらパッドを押しているうちに終了。

前日まで眠れないぐらい心配していた案件は、なぜかすべてクリアできていた。関係者を含む参加者はなんと予想だにできなかった1186名！これは偶然ではない。5年をかけて



のみんなの思いが実を結んだのだ。途中で何度も心が折れそうになったが、続けてきて本当に良かった。5年目にして、何かが起こる。

♥ 参加データ

参加者総数	1186名 (内 高校生以下 140名)
ピンクリボンラン	66名
銀輪隊	30名
乳がん検診	110名
ウォーク	418名
乳がん相談	16名

基調講演 約 600名
アンサーパッド 約 300名

ボランティア数 194名
展示ブース団体 16団体 (患者会も含む)

♥ 取材協力

NHK 水戸放送局、J:COM 茨城、ACCS

♥ 広報協力

常陽新聞、常陽リビング、常陽ウィークリー、月刊いーじーぶれすイデアル、サクラサクライフ、月刊みと、月刊ぶらざ、リン+茨城版、つくばエクスプレス情報誌サワワ、つくば市民活動センター、ラチオつくば

♥ 実行委員

赤座 英之	筑波大学附属病院総合がん診療センター
市村 優一	茨城県メディカルセンター
伊東 孝子	たんぼぼ会 土浦協同病院乳がん患者会
植野 映	茨城県メディカルセンタープレストセンター
上野 修	上野歯科医院
梅本 剛	茨城県メディカルセンター病院乳腺科
太田代 紀子	おたしるクリニック
大塚 正裕	
岡田 周子	
岡田 益吉	(財)国際高等研究所
小田 陽子	筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科
追田 昌文	茨城県総合健診協会
小野 幸雄	茨城県メディカルセンターつくば総合健診センター
貝塚 広史	貝塚みずき野クリニック
春日 晴夫	茨城県メディカルセンター
川上 清	茨城県ウォーキング協会
神田 裕子	
鯨岡 結賀	筑波記念病院放射線科
小仁所 圭子	石岡市医師会病院
小林 奈美	茨城県保健福祉部保健予防課
坂井 朋夫	東京医科大学茨城医療センター放射線部
さかいひろこ	momo
鈴木 武樹	取手北相馬保健医療センター医師会病院
高木 聡	(財)日立メディカルセンター
田中 佐代子	筑波大学芸術学系
東野 英利子	筑波大学臨床医学系放射線科
中野 潤子	くるみの会 筑波大学附属病院乳がん患者会
根本 礼子	
野口 恵	
長谷部久美子	
坂東 裕子	筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科
東島 信明	知の市庭
平井 理心	筑波大学附属病院総合がん診療センター
水谷 理紗	筑波大学医学専門学群
水元 恵子	筑波大学附属病院
光畑 桂子	茨城県メディカルセンターつくば総合健診センター
文 由美	つくばセントラル病院外科
森島 勇	茨城県メディカルセンター病院乳腺科
八木 淳子	
山浦 俊一	茨城県保健福祉部保健予防課
山田 光子	アルスホール ミュージアムショップ
山田 陽子	森の会 筑波大学附属病院乳がん患者会

